

九州厚生局長 殿

佐賀大学医学部附属病院  
病院長 宮崎 耕

佐賀大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 の規定に基づき、平成 2 4 年度の業務に関して報告します。

記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照 (様式第 10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照 (様式第 11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	48.83 人
--------	---------

(注) 前年度の研修医の実数を記入すること。

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法  
→ 別紙参照 (様式第 12)
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績  
→ 別紙参照 (様式第 13)
- 7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	307人	163人	374.2人	看護補助者	51人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	13人	2人	13.9人	理学療法士	13人	臨床検査技師	30人
薬剤師	35人	0人	35人	作業療法士	5人	衛生検査技師	0人
保健師	0人	0人	0人	視能訓練士	2人	その他	0人
助産師	15人	1人	15.7人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看護師	617人	22人	632.2人	臨床工学技士	9人	医療社会事業従事者	5人
准看護師	0人	0人	0人	栄養士	1人	その他の技術員	28人
歯科衛生士	1人	0人	1人	歯科技工士	1人	事務職員	129人
管理栄養士	7人	0人	7人	診療放射線技師	29人	その他の職員	16人

- (注) 1 報告を行う当該年度の 10 月 1 日現在の員数を記入すること。
- 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
- 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下 2 位を切り捨て、小数点以下 1 位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

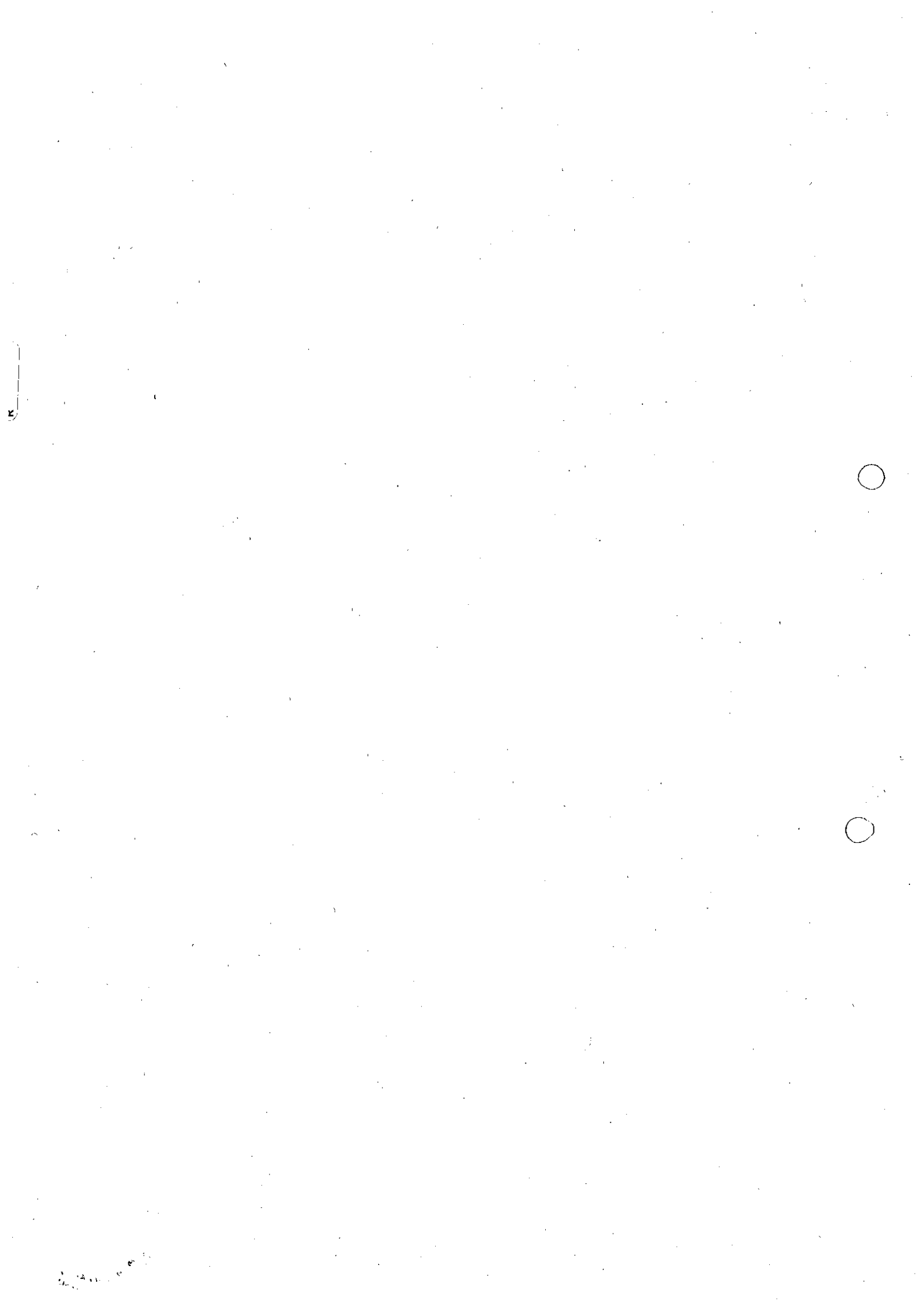
8 入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	499.1人	12.8人	511.9人
1日当たり平均外来患者数	893.2人	45.4人	938.6人
1日当たり平均調剤数	688.4剤		

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の 24 時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。













(様式第10)

### 高度の医療の提供の実績

#### 3 その他の高度の医療

医療技術名	該当なし	取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。





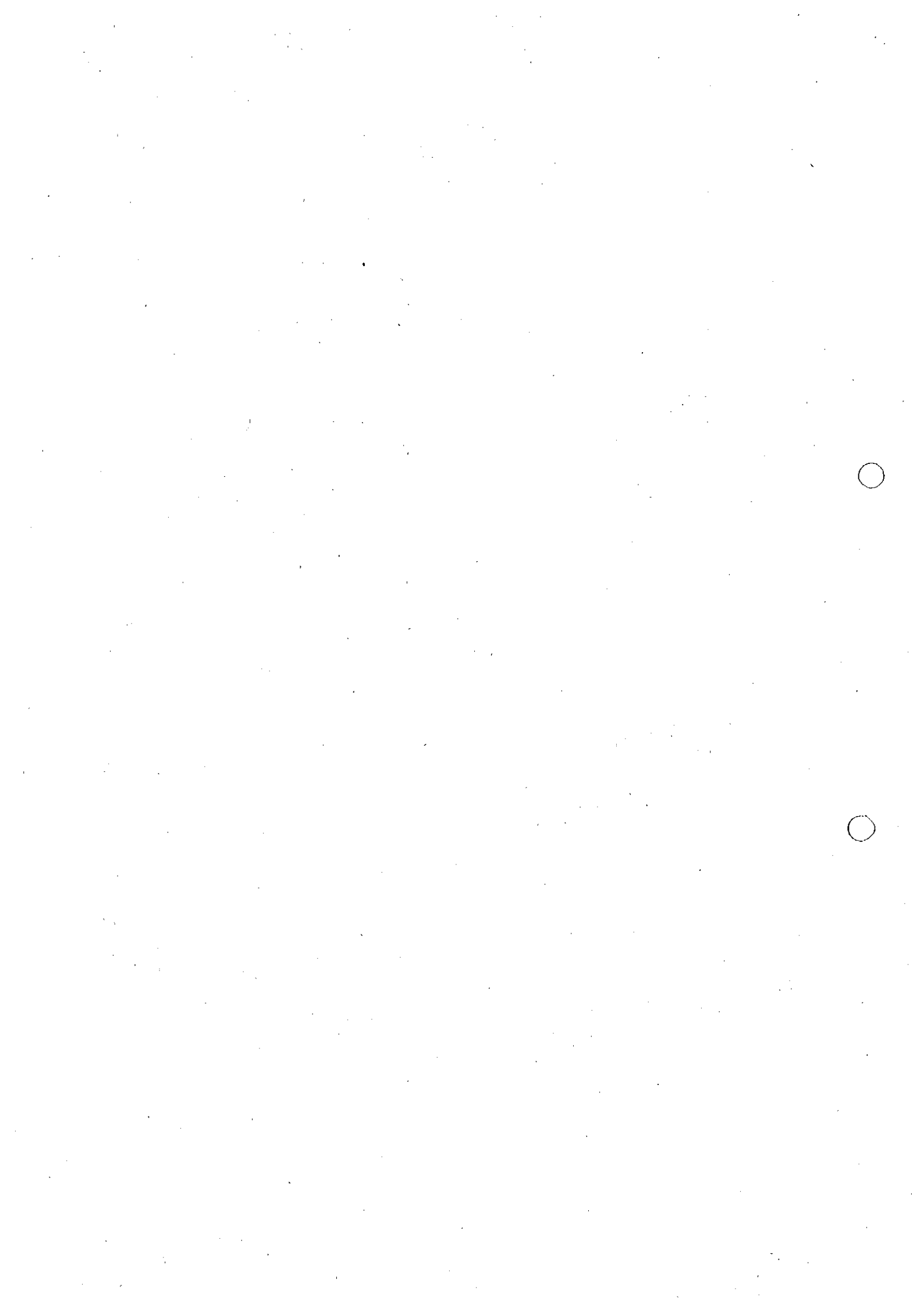
(様式第10)

### 高度の医療の提供の実績

#### 4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱患者数	疾患名	取扱患者数
・ベーチェット病	46人	・膿疱性乾癬	7人
・多発性硬化症	49人	・広範脊柱管狭窄症	4人
・重症筋無力症	69人	・原発性胆汁性肝硬変	18人
・全身性エリテマトーデス	205人	・重症急性膵炎	4人
・スモン	2人	・特発性大腿骨頭壊死症	84人
・再生不良性貧血	28人	・混合性結合組織病	28人
・サルコイドーシス	58人	・原発性免疫不全症候群	3人
・筋萎縮性側索硬化症	14人	・特発性間質性肺炎	17人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	148人	・網膜色素変性症	12人
・特発性血小板減少性紫斑病	49人	・プリオン病	4人
・結節性動脈周囲炎	22人	・肺動脈性肺高血圧症	6人
・潰瘍性大腸炎	148人	・神経線維腫症	7人
・大動脈炎症候群	22人	・亜急性硬化性全脳炎	1人
・ビュルガー病	9人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	1人
・天疱瘡	10人	・慢性血栓塞栓性肺高血圧症	3人
・脊髄小脳変性症	34人	・ライゾーム病	4人
・クローン病	51人	・副腎白質ジストロフィー	0人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	1人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0人
・悪性関節リウマチ	7人	・脊髄性筋萎縮症	7人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	69人	・球脊髄性筋萎縮症	0人
		・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	19人
・アミロイドーシス	7人	・肥大型心筋症	3人
・後縦靭帯骨化症	14人	・拘束型心筋症	0人
・ハンチントン病	0人	・ミトコンドリア病	3人
・モヤモヤ病(ウィリス動脈輪閉塞症)	147人	・リンパ脈管筋腫症(LAM)	0人
・ウェゲナー肉芽腫症	8人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	0人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	45人	・黄色靭帯骨化症	5人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	10人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、AD H分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング 病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	36人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	0人		

(注)「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。



(様式第10)

### 高度の医療の提供の実績

#### 5 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・乳がんにおけるセンチネルリンパ節の同定と転移の検索	・
・インプラント義歯	・
・超音波骨折治療法	・
・肝切除手術における画像支援ナビゲーション	・
・内視鏡的大腸粘膜下層剥離術	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注)「施設基準等の種類」欄には、業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

#### 6 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	1週間に1回開催
部 検 の 状 況	部検症例数 48例 / 部検率 13.20%



(様式第11)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
ループス腎炎の病態発現におけるインターフェロン制御因子5の作用の解析	多田 芳史	膠原病・リウマチ内科	1,100,000	補委 日本学術振興会 科学研究費補助金
自己抗体産生細胞を標的とした全身性エリテマトーデスの新規治療法の開発	小荒田 秀一	膠原病・リウマチ内科	700,000	補委 日本学術振興会 科学研究費補助金
DNA依存性キナーゼを標的とした癌治療の構築と効果予測因子の探索	荒金 尚子	呼吸器内科	1,000,000	補委 日本学術振興会 科学研究費補助金
アルツハイマー病における脳の慢性炎症病態解析と治療法開発	原 英夫	神経内科	1,900,000	補委 日本学術振興会 科学研究費補助金
新規細胞表面分子Plxdc2を指標とする造血幹細胞の局在とそのニッチの解明	久保田 寧	血液・腫瘍内科	1,200,000	補委 日本学術振興会 科学研究費補助金
循環器病における時計遺伝子の解析	野出 孝一	循環器内科	1,600,000	補委 日本学術振興会 科学研究費補助金
視床下部と自律神経系による代謝調節機構の解明: 個体・細胞レベルでの検討	藤本 一眞	消化器内科	1,300,000	補委 日本学術振興会 科学研究費補助金
肝癌の分子標的治療におけるVitamin K2アジュバント効果の基礎的研究	水田 敏彦	肝臓・糖尿病・内分泌内科	800,000	補委 日本学術振興会 科学研究費補助金
未分化型胃癌に対する低酸素誘導エピジェネティック分子を標的とした治療モデルの確立	古賀 靖大	一般・消化器外科	2,300,000	補委 日本学術振興会 科学研究費補助金
癌細胞選択的アポトーシス活性化小分子化合物を用いた新規胃癌治療の確立	井手 貴雄	一般・消化器外科	1,300,000	補委 日本学術振興会 科学研究費補助金
TFF1をターゲットとした胃癌腹膜播種の分子標的治療に向けた基礎的研究	中村 淳	一般・消化器外科	1,200,000	補委 日本学術振興会 科学研究費補助金
立体的心筋細胞構造体による心機能の再生	森田 茂樹	心臓血管外科	3,600,000	補委 日本学術振興会 科学研究費補助金
特発性気胸におけるプレブ形成の病態解明	武田 雄二	心臓血管外科	1,300,000	補委 日本学術振興会 科学研究費補助金
幹細胞由来大型心筋移植片の心筋再生効果の解析	野口 亮	心臓血管外科	1,000,000	補委 日本学術振興会 科学研究費補助金
組織工学と幹細胞研究を融合させた新規自己細胞由来人工血管による再生医療	蒲原 啓司	心臓血管外科	900,000	補委 日本学術振興会 科学研究費補助金
Scaffoldを用いない自己細胞由来心臓弁の作成	古川 浩二郎	心臓血管外科	900,000	補委 日本学術振興会 科学研究費補助金
前立腺癌細胞の生存・増殖・浸潤における放射線被曝間質細胞の役割とその制御機構	魚住 二郎	泌尿器科	800,000	補委 日本学術振興会 科学研究費補助金
膝疾患における膝組織血流量の多元的臨床的評価法の確立	入江 裕之	放射線科	1,600,000	補委 日本学術振興会 科学研究費補助金
高次脳機能障害におけるASL-MRI脳血流画像での臨床的解析法の確立	野口 智幸	放射線科	1,500,000	補委 日本学術振興会 科学研究費補助金
MDCTでの造影表層スライス像を用いた早期胃癌の実用的局在診断評価法の確立	北野 庸	放射線科	1,200,000	補委 日本学術振興会 科学研究費補助金
脊髄血液灌流の評価方法の確立	江頭 秀哲	放射線科	1,500,000	補委 日本学術振興会 科学研究費補助金

小計 21

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
気道のTh2環境決定におけるTSLP等の活性物質とアラキドン酸代謝物との相互作用	濱崎 雄平	小児科	1,700,000	補委 日本学術振興会 科学研究費補助金
小児気管支喘息発症および気道炎症に関わるクラス3セマフォリンの役割の解明	山本 修一	小児科	1,500,000	補委 日本学術振興会 科学研究費補助金
ベックウィズ・ピーデマン症候群の父性ダイソミー多様性と腎泌尿器症状の関連性の解明	大塚 泰史	小児科	1,400,000	補委 日本学術振興会 科学研究費補助金
単球・血管内皮・脂肪細胞による3次元培養モデルを用いた川崎病血管炎の病態の解析	田代 克弥	小児科	1,000,000	補委 日本学術振興会 科学研究費補助金
徐放作用を有する網膜接着糊を用いた網膜剥離および虚血性網膜疾患の治療法	平田 憲	眼科	1,300,000	補委 日本学術振興会 科学研究費補助金
siRNAによる緑内障モデルラットにおける視神経節保護効果の検討	石川 慎一郎	眼科	1,000,000	補委 日本学術振興会 科学研究費補助金
舌癌の上皮-間葉系移行(EMT)におけるラミニン $\gamma$ 2鎖発現の意義に関する研究	倉富 勇一郎	耳鼻咽喉科	1,000,000	補委 日本学術振興会 科学研究費補助金
デジタル歯科技工に顎顔面形態機能情報を付与する統合型3次元計測システムの開発	野口 信宏	歯科	2,800,000	補委 日本学術振興会 科学研究費補助金
唇顎口蓋裂患者における間葉系幹細胞を用いた再生治療の確立	山下 佳雄	歯科	500,000	補委 日本学術振興会 科学研究費補助金
非アルコール性脂肪性肝疾患の病態進展に及ぼす骨格筋組織関連の解析	江口 有一郎	肝疾患センター	200,000	補委 日本学術振興会 科学研究費補助金
アレルギー性炎症におけるマトリセルラータンパク質の役割の解明および治療への応用	太田昭一郎	検査部	1,300,000	補委 日本学術振興会 科学研究費補助金
低酸素応答遺伝子HIF- $\alpha$ によるリンパ腫発生促進機構の解析	末岡 榮三朗	輸血部	1,000,000	補委 日本学術振興会 科学研究費補助金
心筋細胞の生存・分化・脂肪毒性における脂肪組織の役割とその制御機構	戸田 修二	病理部	1,300,000	補委 日本学術振興会 科学研究費補助金
骨芽細胞の増殖・分化・脂肪毒性における骨髄脂肪組織の影響とその制御機構の解明	内橋 和芳	病理部	1,200,000	補委 日本学術振興会 科学研究費補助金
肝細胞癌由来癌幹細胞の生存・増殖・分化・遊走における脂肪組織の役割とその制御機構	松延 亜紀	病理部	800,000	補委 日本学術振興会 科学研究費補助金
喀痰中の結核菌を迅速に検出するイムノクロマト法の開発	永田 正喜	感染制御部	900,000	補委 日本学術振興会 科学研究費補助金
高齢者における心不全在宅医療に関する研究	野出 孝一	循環器内科	33,546,000	補委 厚生労働省科学研究費補助金(代表者)
特発性大腿骨頭壊死症の病因遺伝子解析と予防法開発への応用	多田 芳史	膠原病・リウマチ内科	8,000,000	補委 厚生労働省科学研究費補助金(分担)
特発性大腿骨頭壊死症の診断・治療・予防法の開発を目的とした全国学際的研究	多田 芳史	膠原病・リウマチ内科	1,200,000	補委 厚生労働省科学研究費補助金(分担)
重症度別治療指針作成に資すHAMの新規バイオマーカー同定と病因細胞を標的とする新規治療法の開発	原 英夫	神経内科	2,000,000	補委 厚生労働省科学研究費補助金(分担)
スモンに関する調査研究	雪竹 基弘	神経内科	700,000	補委 厚生労働省科学研究費補助金(分担)
プリオン病及び遅発性ウイルス感染症に関する調査研究	雪竹 基弘	神経内科	600,000	補委 厚生労働省科学研究費補助金(分担)

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
腸管希少難病群の疫学、病態、診断、治療の相同性と相違性から見た包括的研究	藤本 一真	消化器内科	500,000	補 委	厚生労働省科学研究費補助金(分担)
ウイルス性肝疾患患者の食事・運動療法とアウトカム評価に関する研究	水田 敏彦	肝臓・糖尿病・内分泌内科	3,000,000	補 委	厚生労働省科学研究費補助金(分担)
特発性大腿骨頭壊死症の診断・治療・予防法の開発を目的とした全国学際的研究	馬渡 正明	整形外科	1,200,000	補 委	厚生労働省科学研究費補助金(分担)
アトピー性皮膚炎の発症・症状の制御および治療法の確立普及に関する研究	濱崎 雄平	小児科	900,000	補 委	厚生労働省科学研究費補助金(分担)
神経皮膚症候群に関する調査研究	松尾 宗明	小児科	850,000	補 委	厚生労働省科学研究費補助金(分担)
難治性疼痛の実態の解明と対応策の開発に関する研究	平川奈緒美	麻酔科蘇生科	500,000	補 委	厚生労働省科学研究費補助金(分担)

小計 6

合計 49

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。





## 2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Clin Exp Rheumatol. 30:450,2012.	Clinical factors to predict a poor prognosis and refractory disease in patients with polymyositis and dermatomyositis associated with interstitial lung disease.	多田 芳史	膠原病・リウマチ内科
Clin Dev Immunol. 2012:198206.	Phenotyping of P105-negative B cell subsets in patients with systemic lupus erythematosus.	小荒田 秀一	膠原病・リウマチ内科
Intern Med. 51:3281-3285,2012.	Disseminated nocardiosis caused by Nocardia concava with acute respiratory failure and central nervous system involvement rescued by linezolid.	小林 直美	呼吸器内科
Neurology. 78:e150,2012.	Simultaneous angiography and ultrasonography in extracranial internal carotid artery dissection.	岡 孝之	神経内科
Neurology. 78(24):e150,2012.	Teaching neuroimages :simultaneous angiography and ultrasonography in extracranial internal carotid artery dissection.	岡 孝之	神経内科
Stroke. 43:1800-1805,2012.	Distributional impact of brain microbleeds on global cognitive function in adults without neurological disorder.	薬師寺 祐介	神経内科
臨床神経. 53:46-49,2013.	手掌・両側口症候群を呈した片側橋被蓋傍正中中部出血の1例	山口 りか	神経内科
J Thorac Oncol. 7: 1369-1381,2012.	Application of a highly sensitive detection system for epidermal growth factor receptor mutations in plasma DNA.	荒金 尚子	血液・腫瘍内科
Leuk Lymphoma. 53:2307-2309,2012.	Successful reduced-intensity umbilical cord blood transplantation for adult refractory hemophagocytic syndrome with anti-HLA antigen.	板村 英和	血液・腫瘍内科
Lung Cancer 75: 89-94,2012.	Co-existence of MET FISH positive with EGFR mutations causes poor prognosis in lung adenocarcinoma patients.	荒金 尚子	血液・腫瘍内科
Clin Cardiol. 35(4):231-62,2012.	Continuous positive airway pressure therapy improves vascular dysfunction and decreases oxidative stress in patients with the metabolic syndrome and obstructive sleep apnea syndrome.	尾山 純一	循環器内科
Heart Vessels. 28(2):173-178,2013.	Hyperthermia by bathing in a hot spring improves cardiovascular functions and reduces the production of inflammatory cytokines in patients with chronic heart failure.	尾山 純一	循環器内科
Progress in Medicine. 32(6):163-169,2012.	積極的降圧治療の有効性と安全性およびQOLに関する研究 -ロサルタンサブ解析-	小松 愛子	循環器内科
J Gastroenterol Hepatol. 28:303-308,2013.	Factors affecting short- and long-term effects of leukocyte removal therapy in active ulcerative colitis.	岩切 龍一	消化器内科
World J Hepatol. 27:82-85,2013.	Acute renal failure associated with acute non-fulminant hepatitis B.	岸 知哉	腎臓内科
Dig Endosc. 24:407-411,2012.	Clinical symptoms of FSSG in gastroesophageal reflux disease are critical for PPI treatment: Japanese multi-centers with 185 patients.	田中 未生	消化器内科
Digestion. 86:55-58,2012.	Endoscopic reflux esophagitis and Helicobacter pylori infection in young healthy Japanese volunteers.	岩切 龍一	消化器内科
Digestion. 86:273-280,2012.	Perforation and postoperative bleeding of endoscopic submucosal dissection in gastric tumors: analysis of 1190 lesions in low- and high-volume centers in Saga, Japan.	宮原 貢一	消化器内科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Digestion. 86:323-328,2012.	Risk factors for resistance to proton pump inhibitor maintenance therapy for reflux esophagitis in Japanese women over 60 years.	岩切 龍一	消化器内科
Intern Med. 51:1159-1166,2012.	Characteristics of bacterial species in positive blood cultures among hospitalized patients in three wards in the Department of Internal Medicine: retrospective chart review 1999-2008.	佐藤 留美	消化器内科
J Gastroenterol. 47:284-292,2012.	Rikkunshito improves symptoms in PPI-refractory GERD patients: a prospective, randomized, multicenter trial in Japan.	岩切 龍一	消化器内科
J Nutr Biochem. 23:1668-1675,2012.	The role of PKC isoforms in the inhibition of NF- $\kappa$ B activation by vitamin K2 in human hepatocellular carcinoma cells.	水田 敏彦	肝臓・糖尿病・内分泌内科
J Viral Hepat. 20:e124-6,2013.	An automated rapid detection system using the quenching probe method for detecting interleukin 28B and inosine triphosphatase single nucleotide polymorphisms in chronic hepatitis C.	高橋 宏和	肝臓・糖尿病・内分泌内科
Hepatology Res. 42:879-886,2012.	Skin toxicities and survival in advanced hepatocellular carcinoma patients treated with sorafenib.	大塚 大河	肝臓・糖尿病・内分泌内科
Am J Dermatopathol. 34(4):394-9,2012.	Tricholemmoma and clear cell squamous cell carcinoma (associated with Bowen's disease): immunohistochemical profile in comparison to normal hair follicles.	三砂 範幸	皮膚科
Clin Exp Dermatol. 37(5):484-91,2012.	Folliculocentric squamous cell carcinoma with tricholemmal differentiation: a reappraisal of tricholemmal carcinoma.	三砂 範幸	皮膚科
J Cutan Pathol. 39(7):724-6,2012.	Heterogeneity of cytokeratin 7 expression in pagetoid Bowen's disease.	三砂 範幸	皮膚科
PLoS ONE. 7:e41465,2012.	Diagnostic biopsy does not commonly induce intratumoral CD8 T cell infiltration in merkel cell carcinoma.	古場 慎一	皮膚科
Case Rep Gastroenterol. 6:33-39,2012.	Spindle and giant cell type undifferentiated carcinoma of the proximal bile duct.	井手 貴雄	一般・消化器外科
Cancers. 5(1):15-26,2013.	The critical impact of HIF-1 $\alpha$ on gastric cancer biology.	北島 吉彦	一般・消化器外科
Cholecystectomies. 135-149,2013.	Optimal surgical strategy for gallbladder carcinoma according to clinical and pathological background.	甲斐 敬太	一般・消化器外科
Exp Ther Med. 4:355-362,2012.	Knockdown of hypoxia-inducible factor-1 $\alpha$ accelerates peritoneal dissemination via the upregulation of MMP-1 expression in gastric cancer cell lines.	平木 将紹	一般・消化器外科
Hepatogastroenterology. 59:627-632,2012.	Evaluation of oncological adequacy of laparoscopic distal gastrectomy with special attention to lymph node dissection: a comparison with conventional open gastrectomy.	池田 貯	一般・消化器外科
Int J Oncol. 42(3):894-902,2013.	Loss of trefoil factor 1 is regulated by DNA methylation and is an independent predictive factor for poor survival in advanced gastric cancer.	田中 智和	一般・消化器外科
Pathology International. 62:485-490,2012.	Hepatoid carcinoma of the pancreas penetrating into the gastric cavity: A case report and literature review.	甲斐 敬太	一般・消化器外科
Pathol Int. 62:506-510,2012.	A case of unclassified multicystic biliary tumor with biliary adenofibroma features.	甲斐 敬太	一般・消化器外科
癌と化学療法. 39(1):69-73,2012.	シスプラチンに対するアプレピタントの制吐効果	矢ヶ部 知美	一般・消化器外科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
日本内視鏡外科学会雑誌. 17(2):209-213,2012.	完全内臓逆位症を伴った上行結腸癌に対する腹腔鏡下結腸切除術の1例	志田 雅明	一般・消化器外科
乳癌の臨床. 27(4):477-483,2012.	乳腺過誤腫(腺脂肪腫)の2例	甲斐 敬太	一般・消化器外科
Gen Thorac Cardiovasc Surg. 60(11):781-783,2012.	The utility of BiClamp for intraoperative air leakage control in video-assisted thoracic surgery for pulmonary lobectomy.	櫻木 徹	呼吸器外科
Ann Thorac Cardiovasc Surg. 18(6):503-505,2012.	Are we providing the best treatment options for patients? The "Heart Team" should function for this purpose.	森田 茂樹	心臓血管外科
胸部外科. 65(4):273-277,2012.	僧帽弁前尖逸脱による僧帽弁閉鎖不全症に対する人工腱索再建術の長期遠隔成績	古川 浩二郎	心臓血管外科
胸部外科. 65(7):551-554,2012.	新しいシーレスオープンステントグラフトを併用した弓部大動脈人工血管置換術	古舘 晃	心臓血管外科
胸部外科. 65(12):1057-1061,2012.	左房原発平滑筋肉腫	中西 晴美	心臓血管外科
人工臓器. 41(3):168-171,2012.	再生医療による人工臓器研究の最近の進歩: scaffold freeの心臓・血管組織の構築	森田 茂樹	心臓血管外科
日血外会誌. 21(2):153-156,2012.	腹部分枝 debranching 後に上腸間膜動脈塞栓術を追加した胸腹部大動脈瘤ハイブリッド手術の1例	高松 正憲	心臓血管外科
J Neurosurg. 118(2):460-464,2013.	Surgical treatment for vertebral artery-posterior inferior cerebellar artery aneurysms:special reference to the importance of the cerebellomedullary fissure dissection.	河島 雅到	脳神経外科
Neurosurg Rev. 35:563-572,2012.	Exposure of the wide interior of fourth ventricle without splitting the vermis:importance of cutting procedures for the tela choroidea.	松島 俊夫	脳神経外科
Anesthesiol Res Pract. 6:235-238,2012.	Subcutaneous single injection digital block with epinephrine.	園畑 素樹	整形外科
J Orthop Sci. 17:382-389,2012.	Total hip arthroplasty combined with double-chevron subtrochanteric osteotomy.	園畑 素樹	整形外科
Open Orthop J. 6:235-238,2012.	Successful closed reduction of a dislocated constrained total hip arthroplasty:a case report and literature review.	園畑 素樹	整形外科
Hip Joint. 38:440-444,2012.	殿筋内脱臼股の大腿骨位置-臥位と立位の比較-	園畑 素樹	整形外科
Hip Joint. 38:567-570,2012.	寛骨臼移動術の10年成績	河野 俊介	整形外科
Hip Joint. 38:750-752,2012.	単純X線写真による大腿骨前捻角計測法	北島 将	整形外科
整形外科と災害外科. 61(3):341-345,2012.	Posterior stabilizer型人工膝関節全置換術における脛骨component周囲の骨透亮像のX線評価	井手 衆哉	整形外科
整形外科と災害外科. 61(3):369-372,2012.	2機種的人工膝関節全置換術における膝蓋骨非置換例の検討	上杉 勇貴	整形外科
日本関節病学会誌. 31(1):1-6,2012.	殿筋内脱臼股における大腿骨頭位置の検討	園畑 素樹	整形外科
日本臨床麻酔学雑誌. 32(2):261-265,2012.	腰下肢痛治療におけるエピソードコピーの位置づけ腰部椎間板ヘルニア、腰部脊柱管狭窄症の治療方針 整形外科の立場から	森本 忠嗣	整形外科
Curr Urol. 6:62-66,2012.	Expression of angiotensin II type 1 receptor in rat bladder smooth muscle cells in response to a streptozotocin induced diabetes mellitus model.	東武 昇平	泌尿器科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
The Internet Journal of Urology. 9(2):DOI: 10.5580/2b10, 2012.	The urination patterns in elderly male patients with upper urinary tract calculi.	東武 昇平	泌尿器科
The Internet Journal of Urology. 9(4):DOI:10.5580/2c70, 2012.	Penile cancer incidentally detected during circumcision: a case report.	東武 昇平	泌尿器科
Urol Int. 89:241-245,2012.	Changes in angiotensin II type 1 receptor expression in the rat bladder by bladder outlet obstruction.	東武 昇平	泌尿器科
西日泌尿. 74(9):508-511,2012.	Postoperative urethral stenosis caused by a jump-rope impacted within the urethral mucous membrane: a case report.	東武 昇平	泌尿器科
西日泌尿. 74(10):538-544,2012.	尿管上皮細胞と脂肪組織の相互作用	有働 和馬	泌尿器科
泌尿器外科. 26(3):271-277,2013.	先端治療3:二分脊椎症例に対する尿路再建 -膀胱拡大術,膀胱頸部形成術,導尿路造設を中心に-	野口 満	泌尿器科
泌尿器外科. 25(4):758-759,2012.	当院における上部尿路上皮内癌に対するBCG腎盂内注入療法の検討	徳田 雄治	泌尿器科
腎と透析. 74(2):169-175,2013.	形成外科的視点に立った潰瘍のwound care	上村 哲司	形成外科
形成外科. 55(9):1026-1029,2012.	後頭部褥瘡に対するV.A.C.ATS®治療システムを用いたわれわれの工夫	上村 哲司	形成外科
形成外科. 55増刊:238-241,2012.	慢性創傷の定義,発生原因,治療の基本	増本 和之	形成外科
創傷. 3(4):196-200,2012.	糖尿病足病変に対する下肢切断術-その問題点と現状-	上村 哲司	形成外科
Fukuoka Acta Med. 103(10):206-214,2012.	Narrowed petrous carotid canal detection for the early diagnosis of moyamoya disease.	野口 智幸	放射線科
泌尿器外科. 25(8):1705-1708,2012.	前立腺癌におけるset up marginの検討~IMRTに向けて~	徳丸 直郎	放射線科
Endocrine. 42:752-753,2012.	The effect of oral presentation on salivary 3-methoxy-4-hydroxy-phenylglycol (MHPG) and cortisol concentrations in training doctors: a preliminary study.	溝口 義人	精神神経科
Hum Psychopharmacol. 28(1): 7-14,2013.	Saliva levels of 3-methoxy-4-hydroxyphenylglycol and clinical efficacy of mirtazapine or selective serotonin reuptake inhibitors in patients with major depression.	江上 真紀	精神神経科
精神科. 20(6):639-648,2012.	うつ病と神経炎症	門司 晃	精神神経科
精神科. 21(3):370-374,2012.	せん妄との鑑別診断が困難であり、抗精神病薬により症状の増悪を認めたカタトニアの1例	石井 博修	精神神経科
Am J Hematol. 87(6):637-639,2012.	Reduced-intensity conditioning in unrelated donor cord blood transplantation for familial hemophagocytic lymphohistiocytosis.	西 眞範	小児科
小児科臨床. 75(10):1683-1686,2012.	ロイコトリエン受容体拮抗薬.	在津 正文	小児科
Pain Clinic. 34(3):432,2013.	Risk factors for medication-overuse headache : An 11-year follow-up study.The Nord-Trøndelag Health Studies.	笹栗 智子	麻酔科蘇生科
循環制御. 33(1):36-39,2012.	Five cases of ABO non-identical red blood cell transfusion during surgery in an urban emergency hospital.	高松 千洋	麻酔科蘇生科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
感染症学雑誌. 87:6-13,2013.	三次医療機関に入院した市中菌血症の臨床・微生物学的解析	山田 友子	麻酔科蘇生科
日本集中治療医学会雑誌. 19(4):633-637,2012.	ICU患者における中心静脈カテーテル関連血栓症	山田 友子	麻酔科蘇生科
日本臨床麻酔学会誌. 33(2):299-306,2013.	エピソードラスコーピー施行患者における腰椎単純MRI所見と硬膜外腔内視鏡所見の比較	笹栗 智子	麻酔科蘇生科
日本臨床麻酔学会誌. 32(4):548-554,2012.	血友病A患者の急性大動脈解離による弓部大動脈人工血管置換術の麻酔経験	濱田 さつき	麻酔科蘇生科
慢性疼痛. 31(1):47-51,2012.	乙字湯・ロフラゼブ酸エチルを使用した慢性会陰部痛患者の5症例	上村 裕平	麻酔科蘇生科
臨床と研究. 89(4):70-74,2012.	神経障害性疼痛治療薬	平川 奈緒美	麻酔科蘇生科
臨床麻酔. 36(4):659-660,2012.	自然気胸に対する肺ブラ切除術中に再膨張性肺水腫をきたした症例	高松 千洋	麻酔科蘇生科
World J Surg Oncol. 11(45):1-4,2013.	Pyomyositis associated with chemotherapy for endometrial cancer: a case report.	中尾 佳史	産科婦人科
産婦人科の実際. 62(3):417-423,2013.	円錐切除後妊娠に対する予防的子宮頸管縫縮術の有用性の検討.	室 雅巳	産科婦人科
Curr Eye Res. 370:907-913,2012.	Neuroprotective effect of small interfering RNA targeted to caspase-3 on rat retinal ganglion cell loss induced by ischemia and reperfusion injury.	石川 慎一郎	眼科
J Funct Biomater. 4:6-13,2013.	Use of an ophthalmic viscosurgical device for experimental retinal detachment in rabbit eyes.	平田 憲	眼科
Ophthalmic Surg Lasers Imaging. 43:e64-7,2012.	Viability of topical endoscopic imaging system for vitreous surgery in rabbit eyes.	平田 憲	眼科
Ophthalmol Ther. 2:11-18,2013.	Observation of peripheral retina by topical endoscopic imaging method—a preliminary study.	平田 憲	眼科
眼科. 55:79-83,2013.	両眼内浸潤をきたした成人T細胞白血病の1例	山本 聡一郎	眼科
眼科. 54:1071-1076,2012.	漿液性網膜剥離を認めたサルコイドーシスの2症例	平田 憲	眼科
眼科. 54:1671-1675,2012.	網膜中心動脈閉塞症の陳旧期に網膜分離症様変化をきたした1例	大野 新一郎	眼科
眼科. 54:1953-1959,2012.	原田病と診断され、ステロイドパルス投与で憎悪した多発性後極部網膜色素上皮症の一例	山本 聡一郎	眼科
眼科手術. 26:107-109,2013.	栗のイガによる角結膜異物の1例	中尾 功	眼科
眼臨紀. 5:733-736,2012.	内境界膜翻転法を用いた黄斑円孔に対する硝子体手術の早期成績	平田 憲	眼科
眼臨紀. 5:1124-1128,2012.	長期間眼内金属異物が存在した2症例	村田 和久	眼科
臨床眼科. 67:91-94,2013.	小児白内障が急速に進行したMarinesco-Sjogren症候群の1例	後藤 あかね	眼科
日本気管食道科学会会報. 63(3):254-261,2012.	声門下喉頭膿瘍の2症例	鈴木 久美子	耳鼻咽喉科
Auris Nasus Larynx. 39(5):507-511,2012.	Pathological characteristics of the epiglottis relevant to acute epiglottitis.	佐藤 慎太郎	耳鼻咽喉科
Case Rep Otolaryngol. Article ID 717251, 5 pages doi:10.1155/2012/717251,2012.	A case of typical carcinoid of the larynx.	佐藤 慎太郎	耳鼻咽喉科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Eur Arch Otorhinolaryngol. [Epub ahead of print], 2013 Mar 8.	Innate immune reactions in locally limited tonsillar cancer.	倉富 勇一郎	耳鼻咽喉科
頭頸部癌. 38(1):26-32,2012.	局所進行舌癌T3-4の外科的治療 旁咽頭～下顎角内側部再発と内側翼突筋切除に関する検討	倉富 勇一郎	耳鼻咽喉科
日本気管食道科学会会報. 63(2):104-108,2012.	GERD研究の最先端 基礎から臨床へ 胃酸逆流と喉頭肉芽腫 動物モデルを用いた検討	島津 倫太郎	耳鼻咽喉科
Int J Oral maxillofac Surg. 41:1571-1576,2012.	Anatomical measurement of the depth and location of the sublingual fossa.	内田 雄基	歯科口腔外科
ISRN Dent. doi:10.5402/2012/840483. Epub,2012.	Comprehensive analysis of bacterial flora in postoperative maxillary cyst fluid by 16S rRNA gene and culture methods.	佐野 直人	歯科口腔外科
Neuroscience. 210:403-415,2012.	Presynaptic enhancement by eugenol of spontaneous excitatory transmission in rat spinal substantia gelatinosa neurons is mediated by transient receptor potential A1 channels.	井上 将成	歯科口腔外科
日口科誌. 61(1):16-23,2012.	酸素ラジカルを用いた低温プラズマ滅菌装置の滅菌特性と歯科用パーに対する滅菌性能	山下 佳雄	歯科口腔外科
日口科誌. 61(3):243-250,2012.	顎口腔領域における静脈奇形に対するオレイン酸モノエタノールアミンを用いた硬化療法	檀上 敦	歯科口腔外科
救急医学. 36(10):1389-1391,2012.	Revised Trauma Score(RTS).	阪本 雄一郎	救命救急センター
災害医療とIT. 122-125,2012.	iPadを用いた救急医療活動	阪本 雄一郎	救命救急センター
Int Med 51: 1747-1750,2012.	Severe steroid-resistant thrombocytopenia secondary to cytomegalovirus infection in an immunocompetent adult.	杉岡 隆	総合診療部
J Clin Biochem Nutr. 52(1):89-93,2013.	Arm span-height difference is correlated with gastroesophageal reflux symptoms in aged Japanese subjects.	江口 仁	総合診療部
Am J Respir Cell Mol Biol. 46(5):677-86,2012.	Periostin, a matricellular protein, plays a role in the induction of chemokines in pulmonary fibrosis.	戸田 修二	病理部
Allergol Int. 61(4):563-72,2012.	Periostin contributes to the pathogenesis of atopic dermatitis by inducing TSLP production from keratinocytes.	戸田 修二	病理部
Bone. 52(1):102-10,2013.	Osteoblast migration into type I collagen gel and differentiation to osteocyte-like cells within a self-produced mineralized matrix: a novel system for analyzing differentiation from osteoblast to osteocyte.	内橋 和芳	病理部
Exp Dermatol. 21(5):331-6,2012.	Periostin, a matricellular protein, accelerates cutaneous wound repair by activating dermal fibroblasts.	戸田 修二	病理部
J Clin Invest Jul. 122(7):2590-2600,2012.	Periostin promotes chronic allergic inflammation in response to Th2 cytokines.	増岡 美穂	病理部
Medical Technolog. 40(10):1117-1121,2012.	子宮頸部細胞診における角化細胞の見方	山崎 文朗	病理部
診断病理. 29(3):236-239,2012.	陰茎尿道腺癌の1例	松延 亜紀	病理部
Hip Joint. 38:141-143,2012.	寛骨臼移動術後早期における歩行能力とクリニカルパスの検討	東島 直生	先進総合機能回復センター

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
J Stroke Cerebrovasc Dis. doi:pii: S1052-3057(12)00338-2. [Epub ahead of print],2012.	Stroke scale items associated with neurologic deterioration within 24 hours after recombinant tissue plasminogen activator therapy.	南里悠介	先進総合機能回復センター
日本作業療法研究学会雑誌. 15(1):7-12,2012.	認知症と手段的ADLに関する文献研究	仙波 梨紗	先進総合機能回復センター
Clin J Gastroenterol. 5(2):141-145,2012.	Efficacy of pegylated interferon plus ribavirin in combination with corticosteroid for two cases of combined hepatitis C and autoimmune hepatitis.	大枝 敏	肝疾患センター
Hepatol Res. doi: 10.1111/hepr.12176. [Epub ahead of print] 2013.	Efficacy of ezetimibe for reducing serum low-density lipoprotein cholesterol levels resistant to lifestyle intervention in patients with non-alcoholic fatty liver disease.	大座 紀子	肝疾患センター
J Clin Biochem Nutr. 52(3):241-243,2013.	Evaluation narcotic analgesic use and survival time in terminal stage liver diseases compared with lung cancer: a retrospective chart review.	中下 俊哉	肝疾患センター
J Gastroenterol. 47:586-595,2012.	Prevalence and associated metabolic factors of nonalcoholic fatty liver disease in the general population from 2009 to 2010 in Japan: a multicenter large retrospective study.	江口 有一郎	肝疾患センター
消化器内科. 54(6):637-644,2012.	内臓肥満による脂肪組織機能不全と非アルコール性脂肪性肝疾患(NAFLD)の発症と進展	江口 有一郎	肝疾患センター
OJMM. 2:8-5,2012.	Emergence of optochin resistance among streptococcus pneumoniae in Japan.	永田 正喜	感染制御部
環境感染誌. 28(2):109-113,2013.	上部消化管の内科的処置後に環境由来グラム陰性菌による菌血症を認めた2症例	濱田 洋平	感染制御部
日本化学療法学会雑誌. 60(4):496-500,2012.	独歩入院3時間後に敗血症性ショックを来した1例	濱田 洋平	感染制御部
Oncol.Res. 19:511-518,2012.	Effect of reductions in dose intensity of modified FOLFOX6 in patients with metastatic colorectal cancer.	持永 早希子	薬剤部
Yakugaku Zasshi. 132:727-732,2012.	Development of a specific and sensitive enzyme-linked immunosorbent assay for vindesine.	中野 行孝	薬剤部
Cancer Chemother Pharmacol. 71(1):175-82,2013.	Effects of tumor type, degree of obesity, and chemotherapy.	宮原 強	薬剤部
医療薬学. 39:182-188,2013.	スルファメトキサゾール・トリメトプリムのニューモシスチス肺炎予防投与時の有害事象発現に及ぼす因子の検討	横尾 広美	薬剤部
癌と化学療法. 39:933-937,2012.	中等度催吐制がん化学療法を施行した外来患者におけるアプレピタントの制吐効果およびQOLへの影響	持永 早希子	薬剤部
日本病院薬剤師会雑誌. 48(12): 1489-1492,2012.	慢性骨髄性白血病の分子標的治療における保険薬局の問題点.	細矢 和也	薬剤部

小計 16

合計 140

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。





## (様式第 12)

## 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病院長 宮崎 耕治
管理担当者氏名	診療記録センター長：山下 秀一、放射線部長：入江 裕之、 薬剤部長：藤戸 博、看護部長：長谷川 正志、総務課長：最所 力男、 医事課長：深町 和之

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、 手術記録、看護記録、検査所見記録、 エックス線写真、紹介状、退院した患 者に係る入院期間中の診療経過の要約 及び入院診療計画書		総務課 医事課 薬剤部 看護部 放射線部 診療記録センター	診療記録は、診療記録センター において、1患者1ファイルで集 中管理している。 エックス線写真は、放射線部に おいて、集中管理している。
病院の管理 及び運営に 関する諸記 録	従業者数を明らかにする帳 簿	総務課	
	高度の医療の提供の実績	医事課	
	高度の医療技術の開発及び 評価の実績	医事課	
	高度の医療の研修の実績	総務課	
	閲覧実績	—	
	紹介患者に対する医療提供 の実績	医事課	
	入院患者数、外来患者及び 調剤の数を明らかにする帳 簿	医事課	
第規 一則 号第 一に 掲条 の 十 体一 制第 一 確 保 各 号 状 況 及 び 第 九 条 の 二 十	医療に係る安全管理 のための指針の整備状 況	医療安全管理室	
	医療に係る安全管理 のための委員会の開催 状況	医事課	
	医療に係る安全管理 のための職員研修の実 施状況	医事課	
	医療機関内における 事故報告等の医療に係 る安全の確保を目的と した改善のための方策 の状況	医療安全管理室	
	専任の医療に係る安 全管理を行う者の配置 状況	医療安全管理室	
	専任の院内感染対策 を行う者の配置状況	感染制御部	
	医療に係る安全管理 を行う部門の設置状況	医療安全管理室	

三 第 一 項	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医事課
------------------	------------------------------------	-----

		保管場所	分類方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一一条の十一第一項各号及び第九条の二十三第一項第一号に掲げる体制の確保の状況	院内感染のための指針の策定状況	感染制御部
		院内感染対策のための委員会の開催状況	経営管理課
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医事課
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	医事課 感染制御部
		医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	薬剤部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	MEセンター
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	MEセンター
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	MEセンター
	医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	MEセンター	

(様式第 13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	事務部長 岩村 和彦
閲覧担当者氏名	医事課長 深町 和之
閲覧の求めに応じる場所	医療相談室

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0件
閲覧者別	医師	延 0件
	歯科医師	延 0件
	国	延 0件
	地方公共団体	延 0件

○紹介患者に対する医療提供の実績

紹介率	74.7%	算定期間	平成24年4月1日～平成25年3月31日
算出根拠	A: 紹介患者の数		10,190人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		9,159人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		3,012人
	D: 初診の患者の数		20,782人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
2 A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。



(様式第 13-2)

規則第 1 条の 1 1 第 1 項各号及び第 9 条の 2 3 第 1 項第 1 号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	(有)・無																																													
<p>・ 指針の主な内容：</p> <p>第 1 本院における医療安全管理に関する基本的考え方          第 2 医療安全管理委員会その他本院内の組織に関する基本的事項          第 3 医療に係る安全管理のための従業者に対する研修に関する基本方針          第 4 本院における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針          第 5 医療事故等発生時の対応に関する基本方針          第 6 医療従事者と患者との間の情報の共有に関する基本方針（患者等に対する当指針の閲覧に関する基本方針を含む）          第 7 患者からの相談への対応に関する基本方針          第 8 その他医療安全の推進のために必要な基本方針</p>																																														
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 1 4 回																																													
<p>・ 活動の主な内容：</p> <p>医療安全管理委員会では、次に掲げる事項の審議を行う。          (1) 医療事故に係る情報の収集及び提供に関すること。          (2) 発生した医療事故の原因分析及び改善策等に関すること。          (3) 医療事故防止のための教育・研修に関すること。          (4) その他医療安全管理に関し必要な事項</p>																																														
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 2 1 回																																													
<p>・ 研修の主な内容：</p> <table border="1" data-bbox="199 1339 1348 2007"> <thead> <tr> <th data-bbox="199 1339 263 1370"></th> <th data-bbox="263 1339 821 1370">研修内容（テーマ・講師）</th> <th data-bbox="821 1339 1220 1370">研修期間</th> <th data-bbox="1220 1339 1348 1370">参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="199 1370 263 1489">1</td> <td data-bbox="263 1370 821 1489">第 1 回「医療事故発生、その時診療記録のもつ意味は」 （吉田ひとみ 医療安全管理室副室長）</td> <td data-bbox="821 1370 1220 1489">平成24年 6月5日（20分）</td> <td data-bbox="1220 1370 1348 1769" rowspan="7" style="text-align: center; vertical-align: middle;">1, 149名</td> </tr> <tr> <td data-bbox="199 1489 263 1527">2</td> <td data-bbox="263 1489 821 1527">（本開研修会の収録ビデオ上映）</td> <td data-bbox="821 1489 1220 1527">平成24年 6月19日（20分）</td> </tr> <tr> <td data-bbox="199 1527 263 1565">3</td> <td data-bbox="263 1527 821 1565">"</td> <td data-bbox="821 1527 1220 1565">平成24年 6月20日（20分）</td> </tr> <tr> <td data-bbox="199 1565 263 1603">4</td> <td data-bbox="263 1565 821 1603">"</td> <td data-bbox="821 1565 1220 1603">平成24年 6月21日（20分）</td> </tr> <tr> <td data-bbox="199 1603 263 1641">5</td> <td data-bbox="263 1603 821 1641">"</td> <td data-bbox="821 1603 1220 1641">平成24年 6月25日（20分）</td> </tr> <tr> <td data-bbox="199 1641 263 1680">6</td> <td data-bbox="263 1641 821 1680">"</td> <td data-bbox="821 1641 1220 1680">平成24年 6月26日1回目（20分）</td> </tr> <tr> <td data-bbox="199 1680 263 1718">7</td> <td data-bbox="263 1680 821 1718">"</td> <td data-bbox="821 1680 1220 1718">平成24年 6月26日2回目（20分）</td> </tr> <tr> <td data-bbox="199 1718 263 1769">—</td> <td data-bbox="263 1718 821 1769">（本開研修会の収録ビデオWeb上映）</td> <td data-bbox="821 1718 1220 1769">平成24年 2月（20分）</td> </tr> <tr> <td data-bbox="199 1769 263 1852">8</td> <td data-bbox="263 1769 821 1852">第 2 回「誤薬の現状と対策」 （平野和裕 薬剤部副部長）</td> <td data-bbox="821 1769 1220 1852">平成24年 9月 4日（30分）</td> <td data-bbox="1220 1769 1348 2007" rowspan="5" style="text-align: center; vertical-align: middle;">1, 119名</td> </tr> <tr> <td data-bbox="199 1852 263 1890">9</td> <td data-bbox="263 1852 821 1890">（本開研修会の収録ビデオ上映）</td> <td data-bbox="821 1852 1220 1890">平成24年 9月24日（30分）</td> </tr> <tr> <td data-bbox="199 1890 263 1928">10</td> <td data-bbox="263 1890 821 1928">"</td> <td data-bbox="821 1890 1220 1928">平成24年 9月25日1回目（30分）</td> </tr> <tr> <td data-bbox="199 1928 263 1966">11</td> <td data-bbox="263 1928 821 1966">"</td> <td data-bbox="821 1928 1220 1966">平成24年 9月25日2回目（30分）</td> </tr> <tr> <td data-bbox="199 1966 263 2007">12</td> <td data-bbox="263 1966 821 2007">"</td> <td data-bbox="821 1966 1220 2007">平成24年 9月26日（30分）</td> </tr> </tbody> </table>			研修内容（テーマ・講師）	研修期間	参加人数	1	第 1 回「医療事故発生、その時診療記録のもつ意味は」 （吉田ひとみ 医療安全管理室副室長）	平成24年 6月5日（20分）	1, 149名	2	（本開研修会の収録ビデオ上映）	平成24年 6月19日（20分）	3	"	平成24年 6月20日（20分）	4	"	平成24年 6月21日（20分）	5	"	平成24年 6月25日（20分）	6	"	平成24年 6月26日1回目（20分）	7	"	平成24年 6月26日2回目（20分）	—	（本開研修会の収録ビデオWeb上映）	平成24年 2月（20分）	8	第 2 回「誤薬の現状と対策」 （平野和裕 薬剤部副部長）	平成24年 9月 4日（30分）	1, 119名	9	（本開研修会の収録ビデオ上映）	平成24年 9月24日（30分）	10	"	平成24年 9月25日1回目（30分）	11	"	平成24年 9月25日2回目（30分）	12	"	平成24年 9月26日（30分）
	研修内容（テーマ・講師）	研修期間	参加人数																																											
1	第 1 回「医療事故発生、その時診療記録のもつ意味は」 （吉田ひとみ 医療安全管理室副室長）	平成24年 6月5日（20分）	1, 149名																																											
2	（本開研修会の収録ビデオ上映）	平成24年 6月19日（20分）																																												
3	"	平成24年 6月20日（20分）																																												
4	"	平成24年 6月21日（20分）																																												
5	"	平成24年 6月25日（20分）																																												
6	"	平成24年 6月26日1回目（20分）																																												
7	"	平成24年 6月26日2回目（20分）																																												
—	（本開研修会の収録ビデオWeb上映）	平成24年 2月（20分）																																												
8	第 2 回「誤薬の現状と対策」 （平野和裕 薬剤部副部長）	平成24年 9月 4日（30分）	1, 119名																																											
9	（本開研修会の収録ビデオ上映）	平成24年 9月24日（30分）																																												
10	"	平成24年 9月25日1回目（30分）																																												
11	"	平成24年 9月25日2回目（30分）																																												
12	"	平成24年 9月26日（30分）																																												

13	〃	平成24年 9月27日1回目 (30分)	939名
14	〃	平成24年 9月28日2回目 (30分)	
—	(本開研修会の収録ビデオWeb上映)	平成24年 2月 (30分)	
15	第3回「多数傷病者発生を想定した災害訓練」を振り返って (DVD供閲) (岩村高志 救命救急センター副センター長)	平成24年12月 4日 (30分)	
16	(本開研修会の収録ビデオ上映)	平成24年12月17日 (30分)	
17	〃	平成24年12月18日1回目 (30分)	
18	〃	平成24年12月18日2回目 (30分)	
19	〃	平成24年12月19日 (30分)	
20	〃	平成24年12月20日 (30分)	
21	〃	平成24年12月21日 (30分)	
—	(本開研修会の収録ビデオWeb上映)	平成24年 2月 (30分)	

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況

- ・ 医療機関内における事故報告等の整備 (  有 ) ・ 無 )
- ・ その他の改善のための方策の主な内容 :

【問題点の把握方法】

インシデント・アクシデント速報システムによる報告、インシデント・アクシデントレポートは全て医療安全管理室で収集している。

【問題点の分析方法】

集まった事例は、GRMが影響度を分類のうえサマリ化する。サマリは定例の医療安全カンファレンス、医療安全管理室会議において分析を行う。

【改善策の検討方法】

- (1) 問題発生 of 事象に関連する部署と医療安全管理室で対応策の検討を行う。
- (2) サマリは、定例の医療安全カンファレンス、医療安全管理室会議において対応策等の検討を行う。
- (3) 医療安全管理委員会において審議する。

【改善事例】

- 平成24年 8月21日 抗がん剤払い出し手順の改訂について
- 平成24年 9月25日 「患者誤認・取り違え」についての注意
- 平成24年 9月25日 佐賀大学病院 医療安全ニュースNo. 1
- 平成24年 9月29日 「多数傷病者発生を想定した災害訓練」実施
- 平成24年10月16日 手術室における義歯の管理について
- 平成24年12月20日 筋弛緩薬の保管管理と取扱いの徹底について (お願い)
- 平成24年12月20日 MRI検査における安全確認について
- 平成25年 2月19日 深部静脈血栓症・肺塞栓症予防ガイドライン改訂

⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況  ( 2名 ) ・ 無

⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況  ( 5名 ) ・ 無

⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 所属職員： 専任（２）名 兼任（１９）名</li> <li>・ 活動の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 医療安全管理委員会で用いられる資料及び議事録の作成及び保存、その他医療安全管理委員会の庶務に関すること。</li> <li>(2) 医療事故等に関する診療録や看護記録等への記載が正確かつ十分になされていることの確認を行うとともに、必要な指導を行うこと。</li> <li>(3) 患者や家族への説明など医療事故発生時の対応状況について確認を行うとともに、必要な指導を行うこと。</li> <li>(4) 医療事故等の原因究明が適切に実施されていることを確認するとともに、必要な指導を行うこと。</li> <li>(5) 医療安全に係る連絡調整に関すること。</li> <li>(6) その他医療安全対策の推進に関すること。</li> </ul> </li> </ul>	
⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	有・無

(様式第 13-2)

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無																																																				
<p>・ 指針の主な内容：</p> <p>第1 本院における院内感染対策に関する基本的考え方 第2 院内感染対策のための委員会その他本院内の組織に関する基本的事項 第3 院内感染対策のための従業者に対する研修に関する基本方針 第4 感染症の発生状況の報告に対する基本的対応方針 第5 院内感染発生時の対応に関する基本方針 第6 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針 第7 その他の本院における院内感染対策の推進のために必要な基本方針</p>																																																					
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年12回																																																				
<p>・ 活動の主な内容：</p> <p>院内感染対策委員会では、次に掲げる事項の審議をおこなう。</p> <p>(1) 院内感染の予防に関すること。 (2) 院内感染予防に係る情報の収集に関すること。 (3) 院内感染源及び感染経路の調査に関すること。 (4) 院内感染予防対策の確立に関すること。 (5) 感染制御部の運営に関すること。 (6) その他感染予防及び対策に関すること。</p>																																																					
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年21回																																																				
<p>・ 研修の主な内容：</p>																																																					
<table border="1"><thead><tr><th></th><th>研修内容 (テーマ・講師)</th><th>研修期間</th><th>参加人数</th></tr></thead><tbody><tr><td>1</td><td>第1回「手指衛生はなぜするの？」—身のまわりの細菌を見てみよう— (曲淵裕樹 感染制御部 助教)</td><td>平成24年 6月5日 (20分)</td><td rowspan="7">1,149名</td></tr><tr><td>2</td><td>(本開研修会の収録ビデオ上映)</td><td>平成24年 6月19日 (20分)</td></tr><tr><td>3</td><td>"</td><td>平成24年 6月20日 (20分)</td></tr><tr><td>4</td><td>"</td><td>平成24年 6月21日 (20分)</td></tr><tr><td>5</td><td>"</td><td>平成24年 6月25日 (20分)</td></tr><tr><td>6</td><td>"</td><td>平成24年 6月26日1回目 (20分)</td></tr><tr><td>7</td><td>"</td><td>平成24年 6月26日2回目 (20分)</td></tr><tr><td>—</td><td>(本開研修会の収録ビデオWeb上映)</td><td>平成24年 2月 (20分)</td><td></td></tr><tr><td>8</td><td>第2回「結核の感染防止策」 (青木洋介 感染制御部 部長)</td><td>平成24年 9月 4日 (30分)</td><td rowspan="7">1,119名</td></tr><tr><td>9</td><td>(本開研修会の収録ビデオ上映)</td><td>平成24年 9月24日 (30分)</td></tr><tr><td>10</td><td>"</td><td>平成24年 9月25日1回目 (30分)</td></tr><tr><td>11</td><td>"</td><td>平成24年 9月25日2回目 (30分)</td></tr><tr><td>12</td><td>"</td><td>平成24年 9月26日 (30分)</td></tr><tr><td>13</td><td>"</td><td>平成24年 9月27日1回目 (30分)</td></tr><tr><td>14</td><td>"</td><td>平成24年 9月27日2回目 (30分)</td></tr></tbody></table>			研修内容 (テーマ・講師)	研修期間	参加人数	1	第1回「手指衛生はなぜするの？」—身のまわりの細菌を見てみよう— (曲淵裕樹 感染制御部 助教)	平成24年 6月5日 (20分)	1,149名	2	(本開研修会の収録ビデオ上映)	平成24年 6月19日 (20分)	3	"	平成24年 6月20日 (20分)	4	"	平成24年 6月21日 (20分)	5	"	平成24年 6月25日 (20分)	6	"	平成24年 6月26日1回目 (20分)	7	"	平成24年 6月26日2回目 (20分)	—	(本開研修会の収録ビデオWeb上映)	平成24年 2月 (20分)		8	第2回「結核の感染防止策」 (青木洋介 感染制御部 部長)	平成24年 9月 4日 (30分)	1,119名	9	(本開研修会の収録ビデオ上映)	平成24年 9月24日 (30分)	10	"	平成24年 9月25日1回目 (30分)	11	"	平成24年 9月25日2回目 (30分)	12	"	平成24年 9月26日 (30分)	13	"	平成24年 9月27日1回目 (30分)	14	"	平成24年 9月27日2回目 (30分)
	研修内容 (テーマ・講師)	研修期間	参加人数																																																		
1	第1回「手指衛生はなぜするの？」—身のまわりの細菌を見てみよう— (曲淵裕樹 感染制御部 助教)	平成24年 6月5日 (20分)	1,149名																																																		
2	(本開研修会の収録ビデオ上映)	平成24年 6月19日 (20分)																																																			
3	"	平成24年 6月20日 (20分)																																																			
4	"	平成24年 6月21日 (20分)																																																			
5	"	平成24年 6月25日 (20分)																																																			
6	"	平成24年 6月26日1回目 (20分)																																																			
7	"	平成24年 6月26日2回目 (20分)																																																			
—	(本開研修会の収録ビデオWeb上映)	平成24年 2月 (20分)																																																			
8	第2回「結核の感染防止策」 (青木洋介 感染制御部 部長)	平成24年 9月 4日 (30分)	1,119名																																																		
9	(本開研修会の収録ビデオ上映)	平成24年 9月24日 (30分)																																																			
10	"	平成24年 9月25日1回目 (30分)																																																			
11	"	平成24年 9月25日2回目 (30分)																																																			
12	"	平成24年 9月26日 (30分)																																																			
13	"	平成24年 9月27日1回目 (30分)																																																			
14	"	平成24年 9月27日2回目 (30分)																																																			



—	(本開研修会の収録ビデオWeb上映)	平成24年 2月 (30分)	939名
15	第3回「耐性菌抑制のために知っておきたいこと」 (永田正喜 感染制御部 助教)	平成24年12月 4日 (30分)	
16	(本開研修会の収録ビデオ上映)	平成24年12月17日 (30分)	
17	”	平成24年12月18日1回目 (30分)	
18	”	平成24年12月18日2回目 (30分)	
19	”	平成24年12月19日 (30分)	
20	”	平成24年12月20日 (30分)	
21	”	平成24年12月21日 (30分)	
—	(本開研修会の収録ビデオWeb上映)	平成24年 2月 (30分)	

④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況

- ・ 病院における発生状況の報告等の整備 (  有 ・ 無 )
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：

感染症法で届出が必要な場合は、主治医が報告書に記載し、診療科感染対策医、看護師長の確認のもと提出する。

新規発生MRSAやその他耐性菌については、感染制御部で部署への訪問や治療、及び感染対策の確認を行っている。

(様式第 13-2)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	ⓐ・無																													
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 7 回																													
<p>・ 研修の主な内容：</p> <table border="1" data-bbox="199 555 1385 936"> <thead> <tr> <th data-bbox="199 555 276 589"></th> <th data-bbox="276 555 826 589">研修内容 (テーマ・講師)</th> <th data-bbox="826 555 1246 589">研修期間</th> <th data-bbox="1246 555 1385 589">参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="199 589 276 656">1</td> <td data-bbox="276 589 826 656">「誤薬の現状と対策」 (平野和裕 薬剤部副部長)</td> <td data-bbox="826 589 1246 656">平成24年 9月 4日 (30分)</td> <td data-bbox="1246 589 1385 936" rowspan="8">1,119名</td> </tr> <tr> <td data-bbox="199 656 276 701">2</td> <td data-bbox="276 656 826 701">(本開研修会の収録ビデオ上映)</td> <td data-bbox="826 656 1246 701">平成24年 9月24日 (30分)</td> </tr> <tr> <td data-bbox="199 701 276 745">3</td> <td data-bbox="276 701 826 745">"</td> <td data-bbox="826 701 1246 745">平成24年 9月25日1回目 (30分)</td> </tr> <tr> <td data-bbox="199 745 276 790">4</td> <td data-bbox="276 745 826 790">"</td> <td data-bbox="826 745 1246 790">平成24年 9月25日2回目 (30分)</td> </tr> <tr> <td data-bbox="199 790 276 835">5</td> <td data-bbox="276 790 826 835">"</td> <td data-bbox="826 790 1246 835">平成24年 9月26日 (30分)</td> </tr> <tr> <td data-bbox="199 835 276 880">6</td> <td data-bbox="276 835 826 880">"</td> <td data-bbox="826 835 1246 880">平成24年 9月27日1回目 (30分)</td> </tr> <tr> <td data-bbox="199 880 276 925">7</td> <td data-bbox="276 880 826 925">"</td> <td data-bbox="826 880 1246 925">平成24年 9月28日2回目 (30分)</td> </tr> <tr> <td data-bbox="199 925 276 936">—</td> <td data-bbox="276 925 826 936">(本開研修会の収録ビデオWeb上映)</td> <td data-bbox="826 925 1246 936">平成24年 2月 (30分)</td> </tr> </tbody> </table>			研修内容 (テーマ・講師)	研修期間	参加人数	1	「誤薬の現状と対策」 (平野和裕 薬剤部副部長)	平成24年 9月 4日 (30分)	1,119名	2	(本開研修会の収録ビデオ上映)	平成24年 9月24日 (30分)	3	"	平成24年 9月25日1回目 (30分)	4	"	平成24年 9月25日2回目 (30分)	5	"	平成24年 9月26日 (30分)	6	"	平成24年 9月27日1回目 (30分)	7	"	平成24年 9月28日2回目 (30分)	—	(本開研修会の収録ビデオWeb上映)	平成24年 2月 (30分)
	研修内容 (テーマ・講師)	研修期間	参加人数																											
1	「誤薬の現状と対策」 (平野和裕 薬剤部副部長)	平成24年 9月 4日 (30分)	1,119名																											
2	(本開研修会の収録ビデオ上映)	平成24年 9月24日 (30分)																												
3	"	平成24年 9月25日1回目 (30分)																												
4	"	平成24年 9月25日2回目 (30分)																												
5	"	平成24年 9月26日 (30分)																												
6	"	平成24年 9月27日1回目 (30分)																												
7	"	平成24年 9月28日2回目 (30分)																												
—	(本開研修会の収録ビデオWeb上映)	平成24年 2月 (30分)																												
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況																														
<p>・ 手順書の作成 ( ⓐ・無 )</p> <p>・ 業務の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 医薬品保管証には必要最小限の薬剤である。</li> <li>(2) 医薬品保管証の薬品以外に余剰の薬品はない。</li> <li>(3) 麻薬、覚せい剤原料、第1種・第2種向精神薬は施錠できる場所で区別して保管している。</li> <li>(4) 医薬品の保管場所にきちんと表示がある。</li> <li>(5) 冷所保存の医薬品が整理整頓されている。</li> <li>(6) 緊急の場合以外は、口頭指示だけでなく、指示簿や処方せんで指示を受けている。</li> <li>(7) 内服薬の準備の時には、薬剤を二人でチェックしている。</li> <li>(8) 注射薬調整では、2度以上の薬剤確認を行っている。</li> <li>(9) 点滴投与を開始した後は、点滴ルートから液漏れがないかの確認や、全身状態の確認をしている。</li> <li>(10) 新鮮凍結血漿は常に37℃で溶解し、3時間以内に使用している。</li> </ol>																														
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況																														
<p>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 ( ⓐ・無 )</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>医薬品に係る添付文書等の収集として、厚労省監修 Drug Safety Update 医薬品安全対策情報 (DSU)、PMDAメーリングリスト登録による医薬品情報入手、日本医療機能評価機構の「医療安全情報」などの情報入手とともにメーカーへの変更後の添付文書の送付を依頼している。</p> <p>また、得られた情報のうち必要なものについて医薬品を取り扱う職員に対して、小冊子「薬局からのお知らせ」を月に1回発行し、各病棟、各診療科へ配布。その中にDSUも含めている。その他にも、緊急に通知する必要がある場合は、随時、各病棟、各診療科へ配布している。病棟担当薬剤師からも、適宜、情報提供を行っている。</p>																														

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年60回
・ 研修の主な内容： 人工心肺装置および補助循環装置、人工呼吸器、血液浄化装置、除細動装置、閉鎖式保育器、診療用エネルギー放射線治療装置、診療用放射線照射装置の安全使用のための研修を行っている。	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
・ 計画の策定 (有・無) ・ 保守点検の主な内容：  (医療機器関係) 点検は、機器の性質や性能などにより細部の点検項目が異なるもの大きく分類すると、外観・機能・性能・電気的安全性点検等から構成され、これらの項目を基に製造業者の取扱説明書及び添付文書に記載されている事項を参考にし、機器毎に保守点検表を作成し点検を行っている。  (放射線関係) 製造業者の点検説明書及び添付文書に基づき、電気的安全点検、機械的安全点検、予防的點検等、保守点検表を作成し行っている。	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容：  【収集方法】  (医療機器関係) ・ 平成24年度に開催された学会・研究会および研修会等に参加し、医療機器の安全使用のための情報収集等を行っている。 (1) 平成24年度国公立大学附属病院医療安全セミナー (平成24年6月、大阪大学) (2) 平成24年度 医療安全・質向上のための相互チェック (大学間相互チェック) (平成24年12月、山形大学) ・ 各製造業者より安全情報が提供される。 ・ 医薬品医療機器等安全性情報 (厚生労働省ホームページ) 及び医療機器関連情報 (医薬品医療機器総合機構ホームページ) より情報収集を行っている。  (放射線関係) ・ 各製造業者より安全情報が提供される。 ・ 医薬品医療機器等安全性情報 (厚生労働省ホームページ) 及び医療機器関連情報 (医薬品医療機器総合機構ホームページ) より情報収集を行っている。 ・ 平成24年度に開催された学会・研究会および研修会等に参加し、医療機器の安全使用のための情報収集等を行っている。 (1) 第17回放射線治療セミナー (基礎コース) (主催：放射線治療研究会) (平成24年6月 福岡)	

- (2) 平成24年度 日本放射線治療専門放射線技師認定機構統一講習会  
(主催：日本放射線治療専門放射線技師認定機構) (平成24年8月 福岡)
- (3) 第52回 放射線治療研究会 (主催：放射線治療研究会) (平成24年11月 福岡)
- (4) 第7回 九州放射線医療技術学術大会 (主催：公益社団法人 日本放射線技術学会  
九州部会・九州地域放射線技師会・公益社団法人 日本診療放射線技師会)  
(平成24年11月 長崎)
- (5) 第53回 放射線治療研究会 (主催：放射線治療研究会) (平成24年11月 長崎)
- (6) 放射線安全管理講習会 (平成24年12月 福岡)
- (7) 第11回放射線治療システム研究会 (平成25年1月 福岡)

【提供・周知方法】

(医療機器関係)

- ・ 製造業者より提供された安全情報を機器に携わる者に閲覧させ、保存ファイルしている。
- ・ 院内の各部門へはWebを利用した院内マニュアル統合管理システムでの医療機器の取扱説明書及び添付文書が閲覧及び印刷できる環境を構築している。

(放射線関係)

- ・ 学会等の報告会を行い、周知している。
- ・ 製造業者より提供された情報文書を機器に携わる者へ閲覧させ、保存、ファイルしている。
- ・ 放射線部情報システム (RIS) を使用し、装置マニュアル及び安全管理マニュアルの閲覧ができる。